

事例番号 044 水と緑に彩られた喜びあふれる交流・文化創造都市圏
(千葉県香取市(旧佐原市))

1. 背景

佐原は千葉県北東部に位置する水郷のまちである(市名は 2006 年 3 月に佐原市と周辺 3 町とが合併して香取市となった)。佐原は利根川の水運に支えられ江戸との間での物資の集散拠点として商業がおおいに栄えた。また、香取神宮、鹿島神宮、息栖神社、成田山へ参拝する拠点ともなり、周囲の豊かな自然の魅力とあいまって江戸等から多くの人々が訪れ、佐原は文人等の交流の場ともなった。このような背景の下、文化もおおいに栄え、山車祭り、佐原囃子等、「江戸優り」と言われた伝統文化が形成された。

近代に入り陸上交通機関が整備されると、佐原はその結節点として千葉県北東部地域一帯の中心的都市として発展してきた。しかし、舟運の衰えと共に合理化・効率化の風潮の中で水郷のまちとしての佐原の魅力は次第に低下し、また、モータリゼーションの進展が郊外開発を促し、佐原の中心市街地は衰退に向かうこととなった。特に、1970 年代以降の郊外における大規模商業施設の相次ぐ出店はそれを加速し、中心市街地の商店街では空き店舗の増加が目立つようになった。人口はほぼ横ばい(微減)で推移したものの、高齢化は著しく進んだ。一方、産業構造の変化や経済のグローバル化に伴い、周辺の基幹産業であった農業の経済的地位も衰退し、佐原市はさまざまな面で地域の活力を失っていくこととなった。



香取市の位置 (資料: 香取市、以下の資料も同じ)



香取市の市街地(上方に見えるのは利根川)

2. 目標

佐原市新総合計画基本構想(2001～2020)では、まちづくりの理念を「市民が英知と力を出しあい 自然と文化を活かして創るまちづくり」とし、将来都市像を「歴史とともに未来を築く 市民活力創造都市・佐原」としている。また、第3次香取広域市町村圏計画基本構想(2001～2010)では、圏域づくりの基本理念を「香取地域の可能性を最大限に活かし、住民一人ひとりが香取地域に暮らせる喜びを心から実感できるような、住民と行政とが一体となった個性と魅力あふれる自然豊かで快適な圏域づくりを推進します」とし、圏域が目指す将来像のテーマを「水と緑に彩られた喜びあふれる交流・文化創造都市圏・香取」としている。

自然、歴史、文化の各面における地域資源の魅力を市民主体で再発見し、地域ブランドとして全国にアピールすることで人々の交流を図り、それを活性化につなげることがまちづくりの大きな目標になっているとまとめることができる。

3. 取り組みの体制

NPO 法人「小野川と佐原の町並みを考える会」、NPO 法人「まちおこし佐原の大祭振興協会」、まちづくり会社「榎ぶれきめら」、「榎ゼットやっぺい社」等の組織、市民、行政が連携してまちづくりを行っている。



小野川と佐原の町並みを考える会の小野川清掃

4. 具体策

(1) 町並みの保全・再生

これまでの主な取り組みは以下のとおりである。

1974 年 佐原市伝統的建造物群保存地区調査報告「佐原の町並」作成(文化庁補助調査結果)

1982 年 「佐原の町並 よみがえれ水郷の商都」作成(観光資源保護財団による調査)

1987 年 ふるさと創生事業開始 町並み保全に対する市民の意識が高まる

1990 年 国土庁の地方振興アドバイザーの助言により住民が主体的に町並み保全活動を開始

1991 年 「佐原の町並みを考える会」発足

同会が 92 年、「佐原市小野川・香取街道歴史的町並み保存基本計画(提案)」を作成、市長に提出

さらに同会が中心となり、行政との連携の下、93 年に「佐原市佐原地区町並み形成基本計画」を作成(建設省の「まちなみデザイン推進事業」の補助による)

1994 年 「佐原市歴史的景観条例」施行、町並み保全のための建築物改修等を開始
千葉県の小野川河川環境整備事業(景観)

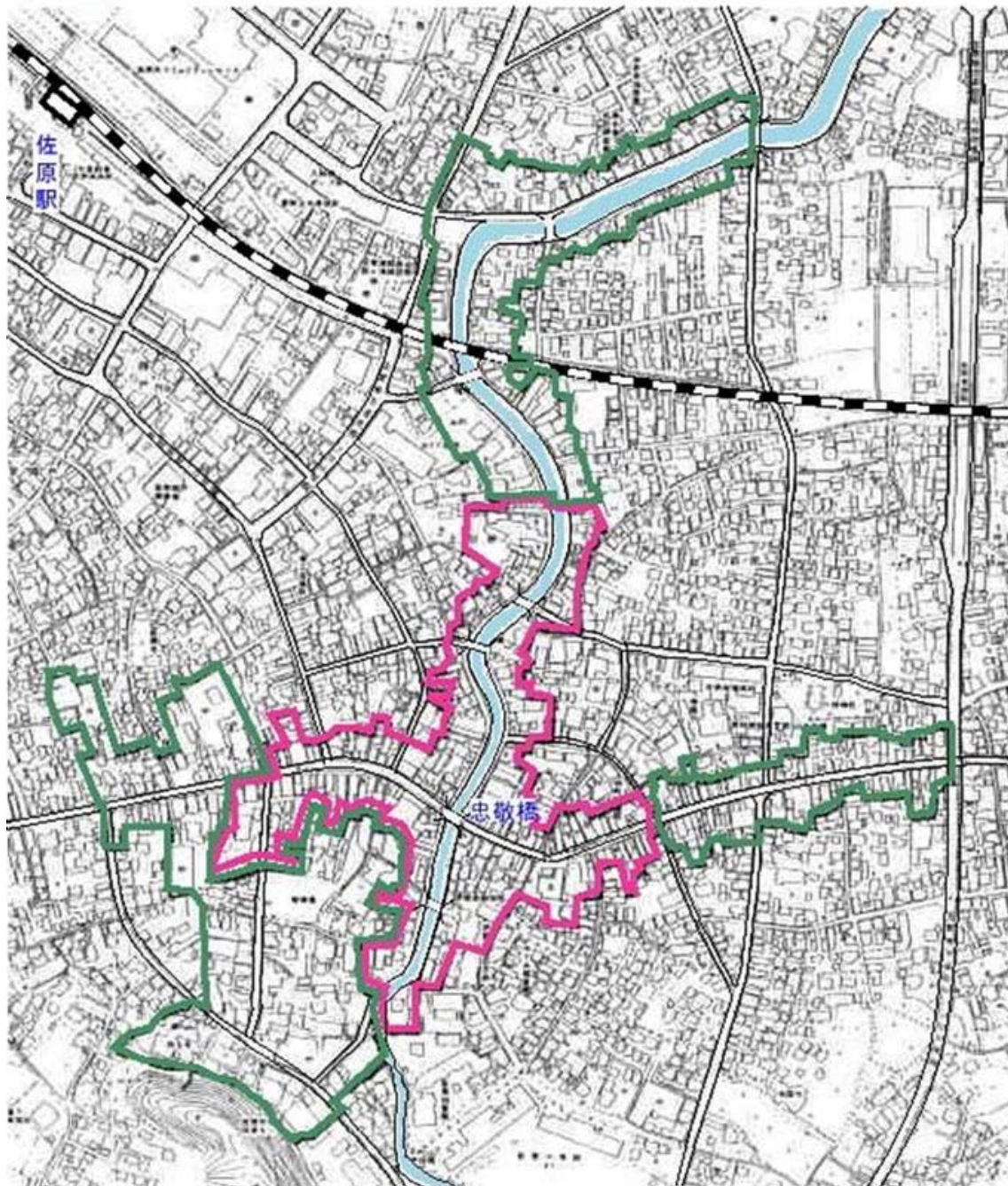
1996 年度 小野川沿いを中心に佐原の町並みが国により重要伝統的建造物群保存地区に選定される

2004 年度 電線地中化事業開始

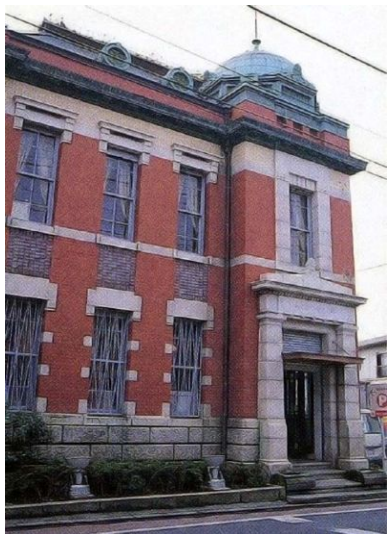
凡例

重要伝統的建造物群保存地区

景観形成地区



重要伝統的建造物群保存地区及び景観形成地区



佐原の町並み

(2) 地域文化の再興

「佐原の大祭」は「江戸優り」の関東一とも言われた祭りである。夏祭り 10 台、秋祭り 14 台の山車が市内を曳きまわされ、提灯の灯と佐原囃子の音が佐原の伝統を今に伝える。

この祭りを梃子に人々の交流を活性化するため、関係者が中心となって実行委員会を組織し、祭りの魅力を高めてそれを外に発信するための仕組みづくりの検討が開始された。そして、新たなイベントを組み合わせた、観光客の受入れ体制を充実したりした結果、観光客が増え、地域の人々もその魅力を改めて見直すようになった。

祭りの企画運営は、2001 年に設立された NPO 法人「まちおこし佐原の大祭振興協会」が実行委員会と共同で行っている。

2004 年には大祭が国の重要無形民俗文化財に選定された。



佐原の大祭

(3) 中心市街地活性化基本計画の策定

佐原市では 2001 年に中心市街地活性化基本計画「水郷の小江戸 産業観光でにぎわいの再興」を策定した(現在は 2006 年 3 月改定のものになっている)。同計画では、中心市街地活性化の共通のキャッチフレーズを「水郷の小江戸 産業観光でにぎわいの再興」とした上で、次の 3 つのテーマを設定している。

- ① 水運と水辺の景観を活かした魅力づくり
- ② 伝統的建造物群を活かした小江戸の雰囲気の漂うまちづくり
- ③ 街に住むことの楽しさが感じられるまちづくり

そして、活性化の基本方針を次の 5 つに整理している。

- ① 香取郡の中心としての都心機能の再構築
- ② 広域から多くの人を集める産業観光の振興
- ④ 住・商・職・文化等の融合する複合機能による活性化の促進
- ⑤ 訪れやすく、楽しく歩ける交通体系の構築

総じて、交流の拡大に焦点を絞った基本戦略であると言える。

中心市街地活性化の対象区域は、空洞化が進みつつある「JR 佐原駅周辺地区」、古い町並みの保存・活用を進めている「小野川周辺地区」、及び新たな交流拠点として開発を進める「本宿耕地地区」の 3 地区としている。具体的な事業としては、小野川周辺地区の活性化を最初に位置づけ、建築物の修景事業、重要伝統的建造物群保存地区の防災対策事業(消火体制の充実等)、車両通行規制(車の乗り入れ規制、小野川周辺道路の駐車禁止等)、小野川舟運基盤整備事業(船着場の整備、河岸整備等)、小野川観光船運航事業、町並み交流プラザ整備事業(銀行撤退後の土地建物を取得し多目的ホールとする)等を掲げている。また、中心市街地全体のソフト事業として、空き店舗活用型テナントミックス事業(まちなかのコミュニティ商業の復活、観光振興)、ウォーキングトレイル促進事業(まちなか観光案内人によるガイドツアー)、賑わいの連続性回復ソフト事業(観光客等の回遊性調査等を実施し、回遊性を高めるためのイベント等を実施する)等を掲げている。

(4) 「佐原まちぐるみ博物館」

気配り、心配りによるリピーターの確保と滞留時間の延長に向けて佐原おかみさん会が「佐原まちぐるみ博物館」の事業を開始した(2005 年)。佐原には江戸時代の店構えを残す店舗や古くからの道具類を伝えてきた家が数多くあり、これまでも個々の家がひな人形や五月人形などを展示してきたが、それらをネットワークでつないでまち全体を博物館にしようというのが「佐原まちぐるみ博物館」である。つまり、これは新しく作った施設ではなく、佐原の生活に密着した伝統の技や文化に触れることのできる場を「博物館」としたものである。館長、楽芸員は各家の「おかみさん」や「オーナー」である。現在 42 軒が参加しており、それぞれが特色ある展示をしている。

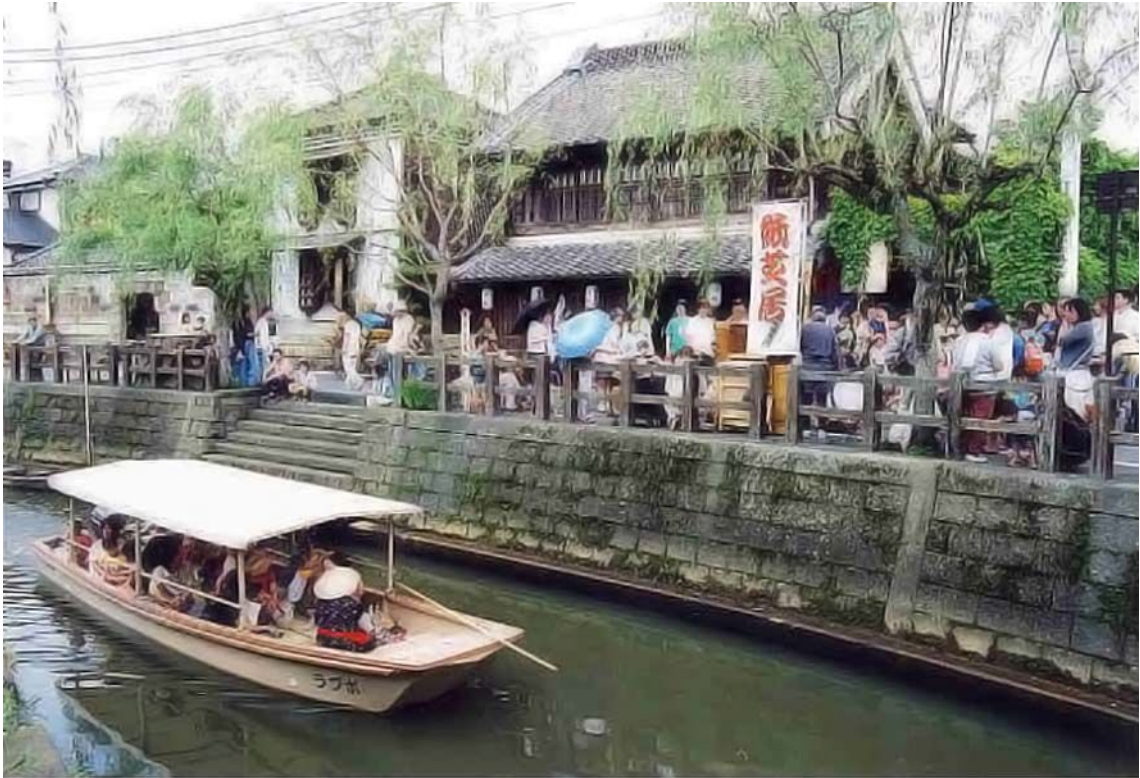


小野川

(5) 「榎ぶれきめら」の設立

2002年、市及び佐原商工会議所は、中心市街地活性化基本計画に則って具体的な事業を展開するために、まちおこしのための第三セクター「榎ぶれきめら」を設立した(また市は佐原商工会議所をTMO機関として認定した)。「ぶれ」はギリシャ語の「青」で、水郷佐原の水と空の青を表している。「きめら」はギリシャ神話に出てくる伝説上の生き物(頭が獅子、胴が山羊、尾が蛇)で、それぞれの異なる能力・才能を集めてより優れた「まちおこし」の仕事を成し遂げようという願いから名付けられた。

「ぶれきめら」の業務内容は、①テナントリーシング・きめらパーキング等の不動産業務、②佐原特産品の販売、③遊覧船・シャトルバス等による佐原を中心とした旅行業務、④各種イベントの企画制作・運営、及び⑤飲食店の経営となっている。具体的には、小野川手前に車を止めて散策を楽しむための駐車場(マイカー、バス)の経営、同敷地内の「お休み処」の経営(佐原限定「しょうゆジェラート」等の販売)、蔵造りの日本料理店の経営、小野川の舟運事業(3コース)、小野川観光船待合所として無料休憩所の提供(観光船のチケット、みやげもの販売)を行っている。



シャトルバス(舟運)

(6) 外国人観光客誘致

2003 年度に、全国都市再生モデル事業として、「外国人観光客を対象とした新たな観光プログラム手法検討業務実証実験」を行った。これは、成田トランジット・短期滞在の外国人観光客に短時間で「歴史的たたずまいのある本当の日本」を見てもらう事業を興すことを目的としたものである。調査・実験事業内容は以下の 3 つである。

- ① 成田トランジットおよび短期滞在の外国人を主なターゲットとした、佐原を目的地とする数時間ツアーを可能にする川と町並みの活用、受入れ条件整備調査
- ② 歴史的町並みの見学、小野川の舟運体験ツアー、参加者アンケート調査の実施
- ③ 周辺市町村との広域連携による舟運ビジネス、町並み店舗を改造活用したアンテナショップの設営によるコミュニティビジネスの構築

①では、成田空港利用の人々の移動実態を詳細に調べた結果、乗継滞在時間が 5 時間台以上および宿泊となるトランジット客は全体の約 2 割であることがわかり、佐原観光へ誘導するためのターゲットになる可能性があることがわかった。しかし、②で外国人にアンケートを行った結果、「待ち時間 5 時間程度の乗継客が 3 時間の佐原観光に出かけることは相当難しい」ということになり、実験ターゲットは宿泊客を中心に設定することが有効と考えられた。そして、乗継時間や査証の有無を考慮すると、ターゲットとして有望なのは、「豪州⇄英国便」ということになり、さらに時間的余裕を考慮して「豪州の各空港から成田に夕方到着し、翌日、ロンドン・ヒースロー空港へ向けて午後(14:15、25)出発する便(403 便)」にターゲットを絞り込んだ。

この設定に基づき、具体的な「午前中半日ツアー」の設定を行い、3 月 7 日(日)~20 日(土)の間で実験を行った(月曜を除く 12 日間)。ツアーの PR に関しては提携 6 ホテルでポスターを張り出してもらい、また、航空会社の協力によりチラシを国内本社から海外の全支店に送ってもらった。ツアーの申し込みは提携ホテルのフロントで受け付けた(参加者がいない日もあったので途中から「午後の半日ツアー」も追加)。ツアーは、A(重伝建地区見学・小野川舟運)、B(重伝建地区見学・小野川舟運と香取神宮参拝)の 2 コースを設けたが、参加者は、総計 19 名(9 組)であった(A コース 10 名(4 組)、B コース 9 名(5 組))。結果的に全組にボランティアのガイドが付いた。ツアー参加者へのアンケート結果によれば、自由コメントで「静か、リラックス、平穩」等と評価されていた。また、ボランティアに対する評価も高かった(親切、丁寧、英語が上手等)。他方、案内板や交通機関の情報提供に関しては評価が低かった。

③では、外国人観光客を積極的に誘致するための今後の方向を探るため、「プロモーション」「タウントレイル(舟運を含む)」「テナントリーシング(アンテナショップ)」について検討した。その結果、プロモーションに関しては、①外国人観光客の感じる魅力と日本人が感じる魅力とは異なる(成田に近いことをアピールする等)、②海外でのプロモーションを誘発する情報ツールのお土産(外国人がプロモーションしやすい情報ツールをお土産として提供する)、③外国人が訪れるまちであることをプロモーションする(それ自体が魅力になる)が重要であることがわかった。タウントレイルに関しては、①ルートの多様性を持たせ選択できるようにする(選択の幅のない観光を嫌う)、②ルートと主要施設のパッケージ化を図る(個々の観光施設で金を払うことにはかなりの抵抗がある)、③外国語表記のサイン類の整備、④体感型施設の充実(単なる風景よりも人々が何かをしている姿に

興味と魅力を感じる)が重要であることがわかった。テナントリーシングに関しては、外国人観光客に「本当の日本を見てもらう」ために、伝統的な『匠』の技に着目し、重要伝統的建造物群保存地区内の空き店舗を活用し、『匠』の実演を見ることが出来るスペースを開設するとともに、周辺 5 市の特産品などの展示・販売を実施した(2004 年 1 月 2 日～3 月 21 日)。その際のアンケートの結果、①外国人観光客にも実演販売・匠の製作実演は魅力的であること、②アンテナショップの本格的展開においては、プロモーション、タウントレイルとの有機的な連携が望ましいこと、がわかった(特に、個々の料金支払いは抵抗が大きいのでパッケージ化が有効)。

For the crew from abroad

An invitation to the Historical Autumn Festivals In Sawara

The City of Sawara cordially invite you to the special excursion to "EDO-MASARI", the historical autumn festival in Sawara. This is the most easiest and cheapest way to join "EDO-MASARI" visiting historical as well as to visit many historic spots in Sawara.

Tour information

Tour title: "EDO-MASARI" in Sawara
Date: ①October 11th (Sat.) ②12th (Sun.) ※Limited to 80 people per day
Price: ¥1,000 (includes bus fare, boat fare, entrance fee to the Inoh Tadataka Museum, full day guide, some souvenir and TAX.)

Itinerary:
 A plan
 *Narita hotels pick up between 12:00 and 13:00
 *Visit at Katori Shrine (13:30 and 14:30)
 *Arrive at temporary parking along a river and get on "SAPPA" boat to the Inoh Tadataka Museum (approx. 10min boat ride) 14:45 to 15:00
 *Free time from 15:00 to 20:00 (you can enjoy "EDO-MASARI" as well as historic city Sawara)
 *Gather at a wharf 20:00 and board a boat
 *Arrive at a temporary parking along a river and depart to hotels 21:00
 *Arrive at Narita hotel 23:00 and 22:30
 B plan
 *Narita hotels pick up between 08:00 and 10:00
 *Drive to Sawara 16:30 to 17:30
 *Arrive at temporary parking along a river and get on "SAPPA" boat to the Inoh Tadataka Museum (approx. 10min boat ride) 18:45 to 19:00
 *Free time from 18:00 to 20:00 (you can enjoy "EDO-MASARI" as well as historic city Sawara)
 *Gather at a wharf 20:00 and board a boat
 *Arrive at a temporary parking along a river and depart to hotels 21:00
 *Arrive at Narita hotels between 23:00 and 22:30

Reservation: *Please book at front desk of participating hotels.
Reservation deadline: *A plan 11:00 on tour's day, B plan 4:30 on tour's day.

Sawara is designated as one of the most historic sightseeing spots in Japan. In "EDO-MASARI", you can see more than 10 festival floats. Each floats have hundreds years history. They parade through historic city Sawara with Japanese drums, gala festival music, many lanterns and high spirited citizens. Why don't you join us!

佐原

Yokoso! JAPAN

Welcome to SAWARA!

Only 30 min. from Narita,

and you'll be in the Historic Japanese Town

<http://www.city.sawara.chiba.jp/>

作成されたパンフレット



外国人観光客



外国人観光客と通訳ボランティア

5. 特徴的手法

地域資源の有効活用をさまざまな経営戦略の下で図っていることが何よりの特徴である。

6. 課題

まちの魅力をさらに高めるために、自動車交通の抑制、看板の規制等が課題になっている。

(参考・引用文献)

香取市ホームページ

旧佐原市ホームページ

佐原商工会議所ホームページ

㈱ぶれきめらホームページ

伊藤滋編著『都市再生最前線』ぎょうせい、2005年